

政府開発援助の内部評価の結果

既往の内部評価（外務省の在外公館評価）の結果では、「成功した案件」が大半で、「成功したとは言い難い案件」が毎年1パーセント前後（平成12年度は、外部有識者による評点化（レーティング。1点から5点まで0.5点ごとに評点を付与すること。）を実施し、総合評点総平均は3.63点、標準偏差は0.60）

また、第三者（有識者）に委託して行う国別評価や特定テーマ別等評価においては、教訓や提言が多々あるものの、総合的な評価では「効果あり」、「有効」とするものがほとんど。

「ODAの成果・効果に係る評価」

外務省では、平成5年度から11年度までの間（9年度を除く。）、在外公館評価の結果を「成功した案件」、「一部改善すべき点がある案件」及び「全体として成功したとはいいい難い案件」に区分し、公表。それによると、毎年、「成功した案件」とされているものが約60パーセントから70パーセント、「一部改善すべき点がある案件」とされているものが約20パーセントから40パーセントと両方で大半を占め、「全体として成功したとはいいい難い案件」とされているものは毎年1パーセント前後

また、平成12年度については、13年12月に発足した外部有識者評価フィードバック委員会に委託し、これら在外公館評価の結果を前提に、委員会の責任で評価対象となったプロジェクトの評点化（レーティング）を試行的に行っており、72評価案件の総合評点総平均は3.63点、標準偏差は0.60であり、全体として比較的高い評価結果となっているとしている。

外務省による評価（在外公館評価）の結果（成功・不成功の状況）

区 分	平成5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
成功した案件 (対象評価案件数に対する構成比)	98 (76.6)	67 (60.9)	73 (57.9)	79 (73.1)	/	67 (59.3)	32 (62.7)
一部改善すべき点等がある案件 (対象評価案件数に対する構成比)	27 (21.1)	41 (37.3)	51 (40.5)	28 (25.9)	/	45 (39.8)	19 (37.3)
全体として成功したとはいいい難い案件 (対象評価案件数に対する構成比)	3 (2.3)	2 (1.8)	2 (1.6)	1 (0.9)	/	1 (0.9)	0
対象評価案件	128	110	126	108	/	113	51

(注) 1 外務省の資料に基づき、当省が作成した。

2 平成9年度は、成功・不成功の件数について、評価報告書に記載がない。

平成12年度の外務省による評価（在外公館による評価）の結果の概要（総合評点方式）

評点	件数	構成比
1	0	0%
1.5	0	0%
2	4	5.5%
2.5	1	1.4%
3	12	16.7%
3.5	21	29.2%
4	24	33.3%
4.5	10	13.9%
5	0	0%
合計	72	100%
平均評点	3.63点	

(注) 1 外務省の資料に基づき当省が作成した。

2 「総合評点方式」とは、3人以上の評価者が、DAC（開発援助委員会）の評価5項目（妥当性、目標達成度、効率性、インパクト、自立発展性）及び総合評価の6つの観点に従って、それぞれの評価案件を、5段階で評点したものを平均したものである。「外部有識者評価フィードバック委員会」（外務省経済協力局内に平成13年12月発足。委員5名）が実施した。